【参加・協力団体の活動紹介】

日本小児科学会の活動

日本小児科学会における医療安全の活動と今後の計画

社団法人日本小児科学会における医療安全については、五十嵐隆会長の下で、医療安全担当理事と医療安全委員会が担当し、2004 年以来、毎年目標を設定し、活動を行ってきた。

平成 21 年度の小児の医療安全の活動内容と今後の計画を紹介したい。

1）診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業について

医療安全委員会は、平成 17 年度より日本医学会傘下の各学会と厚生労働省が協力して開始した「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」の、当学会における窓口として活動してきた。この 5 年間に小児例は 9 例報告されている。

2）医療事故調査に関する外部委員の依頼への対応について

今年度、医療事故が起きた病院の管理者が事故調査のための外部委員を当学会に求めてきた事例があり、今後このような依頼が増えることが予想された。このため、当学会として公平性を担保し、専門性を重視して外部委員の候補者を推薦するための手順を作成した。

3）検査のための鎮静法について

今後の当委員会の活動目標の 1 つとして、検査を実施するために必要な鎮静法の安全性を高めることを設定した。具体的な活動として

a. 平成 22 年度に MRI 検査時の鎮静法についての実態調査を施行する。

b. 平成 23 年度の学術集会にてその結果を報告するとともに、米国小児科学会から鎮静に関するガイドラインを策定したメンバーを招聘し、意見交換することを計画している。

日本小児科学会会長　五十嵐隆

医療安全委員会担当理事　小池健一、野々山恵章

（委員長） 阪井裕一

（委員） 青谷裕文、草川功、五石圭司、勝盛宏

（専門委員） 飯沼一宇